



# 急性期脳卒中を有する人に対する 作業療法実践に関する研究

保健福祉学部 作業療法学科  
助教 池内 克馬 (いけうち かつま)

連絡先 県立広島大学 三原キャンパス 3406 号室  
Tel/Fax 0848-60-1245  
E-mail ikeuchi@pu-hiroshima.ac.jp



専門分野： 作業療法学 (身体障害)

キーワード： 身体障害, 作業療法, 作業基盤の実践, 急性期, 脳卒中, がん

## ● 現在の研究について

### 【脳卒中と作業療法】

脳卒中は、悪性新生物、心疾患、肺炎に次いで死因別死亡率の第4位であり、65歳以上の人々の介護が必要となる原因の第1位です。作業療法はリハビリテーション専門職の1種であり、患者さんの生活を支援することに貢献できます。具体的には、患者さんの意欲の向上、日常生活能力の向上、ご自宅などの環境調整などが得意です。近年、作業療法士の間で患者さん自身が価値を置く活動を行う実践（“活動重視の実践”とします）が重要視されているのですが、なかなか浸透しません。病院などの現場で働いていると、患者さんの麻痺や認知機能を改善させることだけの援助をしてしまうことも多いです。もちろん、それも重要ですが患者さんにリハビリテーションへ主体的に参加して頂くために、“活動重視の実践”を強化することも重要です。

### 【これまでの研究】

私が県立広島大学の大学院生だった頃、“活動重視の実践”が最も行われにくいとされる発症して間もない脳卒中領域での研究に挑戦しました。この患者さんに対して、どんなときにどのように“活動重視の実践”が行われているのかを調査しました。結果、ある程度軽症の患者さんに対して実施されていて、その他は患者さんの思いに合わせて実施されていることがわかりました。今後は、この結果をより洗練させていくことが必要です。

## ● 今後進めていきたい研究について

これまでの研究を深める研究と新しい分野に挑戦する研究をしたいです。

### 【現在の研究の継続】

これまでに行った研究により、軽度者に対する作業療法士の取り組みがわかりました。今後は、研究のデータが不足している**重度者に対する研究**を実施したいと思っています。これにより、**患者さんがより主体的に作業療法に参加でき、更に現場の作業療法士の悩みを解決できると**信じています。

### 【新しい分野へ挑戦する研究 (がんの作業療法)】

**がんをお持ちの患者さんが在宅や地域で受ける効果的な作業療法**を追究したいです。現在の制度上、がんをお持ちの患者さんは入院時に作業療法を受けることが主体です。**退院後も継続的に作業療法を受けることで、在宅生活に早く慣れることができる**と考えています。今増えているがんを有する人に向けた効果的な作業療法実践を調査し、質の高い生活に対する支援をしたいと考えています。

## ● 地域・社会と連携して進めたい内容

がんをお持ちの患者さんが退院した際に、リハビリテーションが途切れてしまうことが課題だと思っています。地域・社会・病院等と連携し、がんをお持ちの患者さんが質の高い生活を実現させることに貢献したいです。

## ● これまでの連携実績

- \* 整形疾患のリハビリテーション (肩こり, 腱板損傷, 頸髄症, 変形性肩関節症の講演)
- \* がん患者さんへのサロン (体操の講演)